"Kyodo-Sankaku"

共同参画

"Kyodo-Sankaku"
Number 97
January 2017
Japan Cabinet Office

1

内閣府

Special Feature

特集1／「夫婦が本音で話せる魔法のシート　○○家作戦会議」ワークショップ

特集2／シンポジウム「アジア・太平洋　海を越えて活躍する先輩女性たちの魅力　～起業家と企業人の世界から～」開催

男女共同参画の総合情報誌内閣府編集

主な予定

Schedule

1月12日～2月28日	「男女共同参画週間」キャッチフレーズ募集
1月19日	ダイバーシティ・マネジメントセミナー（東京都千代田区）
1月25日	パートタイム労働者が活躍できる職場づくりシンポジウム（東京都新宿区）
1月26日	「企業×女性起業家のマッチングイベント　ビジネスにも運命の赤い糸ってあるんです　―WEPs（女性のエンパワーメント原則）の実現に向けて―」（東京都中央区）
1月30日	女性のための公務研究セミナー（京都大学）
2月3日	ダイバーシティ・マネジメントセミナー（大阪府大阪市）
2月7日	自治体・企業・NPOによる「子育て支援連携事業」全国会議（東京都千代田区）
2月10日	女性のための公務研究セミナー（お茶の水女子大学）

巻頭言

共同参画に寄せて

Foreword

NPO法人コヂカラ・ニッポン 代表、NPO法人ファザーリング・ジャパン理事
川島 高之

Kawashima Takayuki

家事育児（Life）や地域活動（Social）などを、男性（夫）は積極的にやったほうがいいと思う。理由は３つ。

1つ目は、LifeやSocialを通じて、視野や人脈が広がり、柔軟性や段取り力が向上することで、「仕事（Work）の能力や成果」が高まるからだ。仕事と私生活は対立構造ではなくシナジーな関係。

2つ目は、LifeやSocialによって、幸せ度が抜群に高まり、「強く豊かな」人生を送れるようになるからだ。1本柱や2本柱の建物は倒壊しやすい。Work、Life、Socialという3本柱になってはじめて、強さと豊かさが増すのである。

3つ目は、妻にとってもプラスとなり、夫婦が文字通り「パートナー」としての共同生活を送れるようになるからだ。「男は仕事、女は家庭」という性別役割分担によって、人生を犠牲にした女性や大黒柱のプレッシャーに苦しめられてきた男性は少なくない。

男性は是非、しごと（Work）、自分ごと（Life）、社会ごと（Social）の3本柱な生活を送ってほしい。自分のため、妻のため、社会のため、そして子ども達のために。

共同参画
"Kyodo - Sankaku"
Number 97
1
January 2017

目次

Contents

特集1		「夫婦が本音で話せる魔法のシート〇〇家作戦会議」ワークショップ	Page 02
特集2		シンポジウム「アジア・太平洋海を越えて活躍する先輩女性たちの魅力　～起業家と企業人の世界から～」開催	Page 06
連載	その1	女性の経済的エンパワメント・各国の取組⑨　バリアを破る教育・研修／大西 祥世（立命館大学法学部教授）	Page 09
行政施策トピックス1		世界経済フォーラムが「ジェンダー・ギャップ指数2016」を公表	Page 10
連載	その2	地域における女性の活躍推進⑩　女性の力で地域の課題を解決する	Page 11
行政施策トピックス2		平成28年度『家族の日フォーラム』開催報告	Page 12
取組事例ファイル（団体編）		「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」行動宣言賛同者の取組 磯崎 功典（キリンホールディングス株式会社　代表取締役社長） 國部 毅（株式会社三井住友銀行　頭取兼最高執行役員） 鈴木 純（帝人株式会社　代表取締役CEO） 津賀 一宏（パナソニック株式会社　代表取締役社長）	Page 14
ニュース＆インフォメーション		アセアン諸国における人身取引対策協力促進　他	Page 16
男女共同参画センターだより		札幌市男女共同参画センター	

▼公式Facebook
男女共同参画局 Facebook
https://www.facebook.com/danjokyodosankaku/

▼公式ホームページ
内閣府男女共同参画局
Gender Equality Bureau Cabinet Office
http://www.gender.go.jp

Special Feature 1

特集

「夫婦が本音で話せる魔法のシート ○○家作戦会議」ワークショップ

内閣府男女共同参画局総務課

本誌11月号（No.95）でも御紹介したコミュニケーションツール「夫婦が本音で話せる魔法のシート　○○家作戦会議」（以下「○○家作戦会議」）は、特に若年夫婦を対象として、夫婦各々で記入し、その後、お互いの考えや気持ちを見せ合い確認しながら、家事シェアや、近い将来の家族のことを話し合っていただくことを目的としたものです。（11月号（No.95）で御紹介の後、若干のリニューアルをして、より使いやすくなりました。）

公開から間もないこの「○○家作戦会議」を広く一般の皆さんに知っていただくとともに、よりよい活用をしていただくために、内閣府主催のワークショップを開催しました。続いて、都内や山形県で行われた共働き、子育て、イクメンイベントでも「○○家作戦会議」を活用した広報活動を行いましたので、その様子を御紹介します。

内閣府主催ワークショップ

10月23日（日）、理想の将来を実現するための家事や育児のシェアなどについて相談しながら実践ノウハウも身につけていただくため、「○○家作戦会議」の初お披露目となるワークショップを、東京・市ヶ谷の江上料理学院を会場として開催し、20代、30代の御夫婦を中心に御参加いただきました。

プログラムは2部構成で、第1部は「○○家作戦会議」を使ったワークショップを、第2部では、帰ってからすぐに実践できる料理づくりを体験していただきました。

第1部では、この「○○家作戦会議」の制作に携わっていただいた和泉昭子さん（生活経済ジャーナリスト、キャリアコンサルタント）の進行で、「○○家作戦会議」に沿って家事の役割シェアや効率化について相談して貰うワークを行いました。

夫が「休日の料理をしたい」といったパートナーが意外と好きだった家事を発見できたり、ベッドのシーツを敷くのが大変という悩みに「ボックスシーツに替えよう」という解決策が見つかるなど、話し合うことで気づきや隠れた本音が聞けました。

また、同じくこの「○○家作戦会議」の制作に携わっていただいた三木智有さん（NPO法人tadaima!代表、家事シェア研究家）から、家事・育児シェアのポイントなどを聞きながら、家事の満足度は「コミュニケーションが一番大切」という話に、参加者は深くうなずき聞き入りました。

第2部では、「男性でも始めやすい役割シェアの第一歩」をテーマに、帰ってから「すぐに実践できる」料理アイデアやレシピの体験として、江上料理学院の松井ゆみ先生を講師にお迎えし、簡単にできる料理のコツを教えてもらいながら、ポトフを

主催ワークショップの様子

三木智有さん

「夫婦が本音で話せる魔法のシート　○○家作戦会議」を活用した広報イベントを御紹介します。

男性の皆さんに作っていただきました。

もう一品、時間の都合で調理は実施できませんでしたが、料理学校から「ひじきとアボカドのチーズあえ」の完成品を御提供いただき、全員で試食をしました。

レシピは参加者の皆様に提供され、「家に帰って早速実践したい」といった声も聞かれました。

未来貢献プロジェクトトークイベント「イマドキ夫婦の共働きライフ」

「未来貢献プロジェクト」とは2020年、そしてその先の日本を真剣に考え、様々な角度からより良い未来に貢献することを目的とした読売新聞社のプロジェクトです。その一環として10月29日に「男女共同参画シンポジウム」が開催されたことを前号（No.96）で御紹介しました。

その翌日、10月30日（日）に、こちらも未来貢献プロジェクトの一環として読売新聞社主催による夫婦やカップルを参加対象としたトークイベント「イマドキ夫婦の共働きライフ」が、東京・渋谷の渋谷ヒカリエホールBで開催されました（後援：内閣府男女共同参画局）。女性の社会進出が進み共働き世帯が増加する中、家事や育児の在り方を考えてみようという、このイベントの趣旨は、「○○家作戦会議」が目指すところと同じです。

イベントのオープニングトークでは、三木智有さんが御登壇され、「○○家作戦会議」が開発された経緯も交えて、活用の仕方を解説していただきました。時間の都合でイベント参加者の方々のシート記入までには至りませんでしたが、皆さんに「○○家作戦会議」をお持ち帰りいただきました。

プログラムは3部構成で、第1部は料理研究家の牧野直子さんから、「基本の常備菜」レシピや、時短で男性でも簡単に作れるレシピがステージ上のキッチンで実演しながら紹介されました。

第2部では、第1部から引き続き牧野さん、東京大学大学院総合文化研究科教授の瀬地山角さん、そして三木さんも再び登壇され、コーディネーターの政井マヤさんも交え、仕事や子育てなど、各家庭が抱える課題と、その解決法についてのトークセッションが繰り広げられました。

第3部では、時短家事のお役立ち情報として、このイベントの協賛企業による最新家電や合わせ調味料が紹介されました。

このイベントの詳細については、下記URLを御参照ください。

http://www.yomiuri.co.jp/project/mirai/imadokifufu/index.html

「働く」と「子育て」のこれからを考えるWORKO！

「WORKO！（ワーコ！）」とは、「WORK（働く）」と「KO（子育て）」を合わせた言葉で、もっと働

料理体験（野菜の下準備）

料理体験（ポトフ煮込み）

「夫婦が本音で話せる魔法のシート ○○家作戦会議」ワークショップ

「夫婦が本音で話せる魔法のシート　○○家作戦会議」
p1

「夫婦が本音で話せる魔法のシート　○○家作戦会議」
p2

きながら子育てしやすい社会になるよう考えることを目的とした朝日新聞社のプロジェクトの名称です。

子育てと仕事の両立、待機児童問題、夫婦のすれ違いなど、「子育て」に関する悩みや課題を考え、身近な子育てのヒントを提供する、朝日新聞社主催のイベントが、11月6日（日）、東京・日本橋のYUITO（野村コンファレンスプラザ日本橋）で開催されました（後援：内閣府）。

このイベントは、YUITOの2フロア全体を会場として、朝から夕刻にわたって開催され、子育て中の芸能人や文化人、著名人が登場するセミナーと、協賛企業などによるセミナーが2会場で同時に行われました。そのほか、多くの企業によるブースの出展があり、ファッションブランド、化粧品メーカー、食品メーカー、ヘルスケア、ロボット掃除機、食材宅配などの商品やサービスが紹介されていました。メインホールで行われるセミナーは、そのホールに入れなくても会場内に設置されたモニターで見ることができました。そのモニターには来場者がツイッターでつぶやいた育児についての意見も次々と表示されてました。

また、乳幼児を連れた御家族が多く来場されたので、会場入り口にはたくさんのベビーカーが並び、キッズスペースには大勢のお子さんの元気な姿が見られ、そのお子さんも一緒に楽しめる英語を使ったフィットネス体験コーナーも開かれていました。

この日のセミナーは、テーマ毎に「分かち合える」、「学べる」、「実践できる」の3つにカテゴリー分けされ、内閣府は「これでパパも家事育児戦力に！明日からできる我が家の家事育児作戦会議」と題した「実践できる」の30分間のセミナーを2コマ開催しました。

ここでも三木智有さんと、今回はNPO法人ファザーリングジャパン理事の林田香織さんに御登場いただき、「○○家作戦会議」の活用について掛け合いトークで御紹介していただきました。

30分間という時間ではシートの全容をお伝えすることは難しかったのですが、それでもセミナーに御参加いただいた方からは、「耳に痛い話が多かったが、まずは対話が必要と感じた。」、「『パラレル（同時並行）家事』が参考になった」など前向きな感想を数多くいただきました。

このイベントの詳細については、下記URLを御参照ください。

http://www.asahi.com/ad/worko/

ファザーリング全国フォーラム in やまがた

「イクメン」や「イクボス」の取組の牽引役として広く知られ、今年で設立10周年を迎えるNPO法人ファザーリングジャパンは、毎年全国フォーラムを開催しており、今年は

山形市の山形国際プラザ（山形ビッグウイング）で、11月11日（金）、12日（土）の2日間にわたり開催されました。

この全国フォーラムにおいては、これまでも男女共同参画局が継続して分科会を開催しており、男性の育児参画に係る気運を盛り上げることを目的とするこのフォーラムも、内閣府の所管施策の推進に寄与するものであることから、今年も内閣府が後援しました。内閣府以外にも中央省庁として分科会を開催した財務省、文部科学省、厚生労働省、経済産業省も後援に加わっています。

内閣府は「二人で叶えるライフとキャリアイマドキ夫婦のための家族力UP！ワークショップ」と題した分科会を11月12日（土）に開催しました。

プログラムは2部構成で、第1部には講師として、三木智有さんを迎えて、「○○家作戦会議」に参加者の方々に実際に記入していただきながら、役割シェアについて考えていただきました。

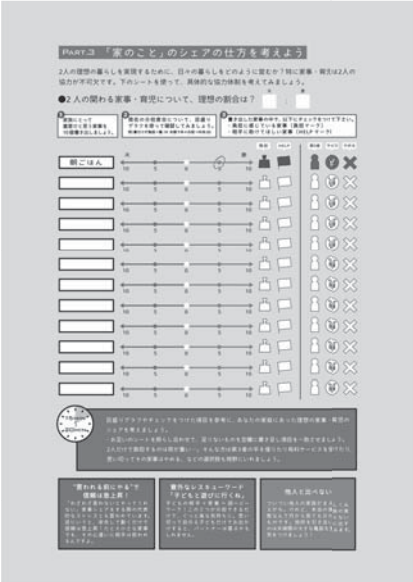
第2部では、山形県家庭教育アドバイザーで、住職でもある小野卓也さん、社会福祉士の大場友美さんと、三木さんをパネリストに迎え、「イマドキ！パパ＆ママの家事シェアの心得～家族の笑顔力UPの秘訣とは？～」と題したパネルディスカッションが行われました。

参加された方からは「相手を尊重して、自ら気づいたことをすすんでやっていきたいと思います。」との感想をいただきました。

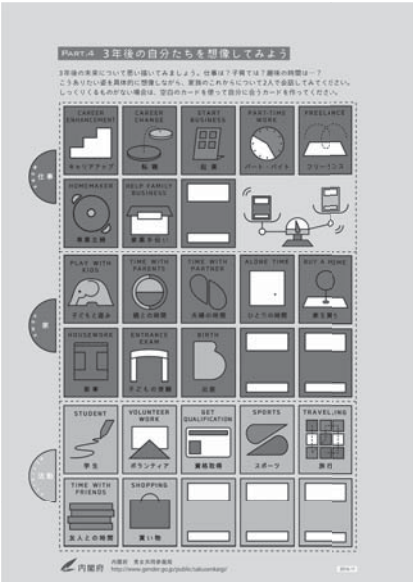
男女共同参画局は、今後も、機会を捉えて、「夫婦が本音で話せる魔法のシート　○○家作戦会議」を活用した広報を行っていきたいと考えています。

情報は、男女共同参画局ホームページでお知らせします。

http://www.gender.go.jp/public/sakusenkaigi/index.html



「夫婦が本音で話せる魔法のシート　○○家作戦会議」
p3



「夫婦が本音で話せる魔法のシート　○○家作戦会議」
p4

Special Feature 2

特集

シンポジウム「アジア・太平洋　海を越えて活躍する先輩女性たちの魅力　～起業家と企業人の世界から～」開催

内閣府男女共同参画局総務課

シンポジウム「アジア・太平洋　海を越えて活躍する先輩女性たちの魅力　～起業家と企業人の世界から～」の開催

平成28年11月23日、新宿・京王プラザホテルにおいて、内閣府主催のシンポジウム「アジア・太平洋海を越えて活躍する先輩女性たちの魅力～起業家と企業人の世界から～」が開催されました。

本シンポジウムは、内閣府が平成28年度から開始した、「アジア・太平洋輝く女性の交流事業」の一環として開催され、我が国とアジア・太平洋諸国において活躍している国内外の「架け橋女性」の活躍に焦点を当てています。本年度は、起業、企業勤務等における活躍の実態、アジア・太平洋諸国と日本の両方での経験から感じた魅力や今後の活躍における課題等について明らかにするために、32名の「架け橋女性」を招聘しました。

加藤大臣からのビデオメッセージ

開会に先立ち、加藤勝信 男女共同参画・女性活躍担当大臣からビデオメッセージが寄せられました。

加藤大臣からは、まず、我が国が、戦後、平和国家として、隣人であるアジア・太平洋諸国と共に歩んで来ており、戦後70年を迎え、特に女性の交流を通じて、友好・信頼関係を深化させるため、今年度から本事業をスタートしたことが述べられました。

加藤大臣からのビデオメッセージ

次に、多くの「架け橋女性」たちが、我が国の魅力を海外に広めたり、また、海外の視点を我が国に広げたりと、地域の友好・信頼関係構築のための架け橋となっていることへの感謝の気持ちが示されました。

さらに、こうした機会を通じ、将来の架け橋女性、あるいは架け橋女性の良きサポーターが生まれ、個性と能力を生かして輝く女性が増えることにより、我が国、ひいてはアジア・太平洋地域の女性活躍推進のムーブメントが一層広がっていくことへの期待が示されました。

奥田浩美氏による基調講演

続いて、奥田浩美氏（株式会社ウィズグループ代表取締役）による基調講演『未来を創る仕事～Entrepreneurship aimed at solving social challenges～』が行われました。

奥田氏は、自身の時間の使い方について、Job、Role、Missionのそれぞれに3分の1ずつ使うとともに、ワーク・ライフ・バランスではなく、仕事と生活が密接に絡み合い統合された「ワーク・ライフ・インテグレーション」という考え方を紹介し、これまでは多くの人が「自分の軸を持て」と教えられてきたが、これからの社会は片足で立ち、ぐらぐらする不確かなことに慣れることが必要であり、1つの役割だけではなく、様々な役割を持たないといけない時代が来るとの見通しを示しました。

奥田氏

その上で、奥田氏が多彩な活躍を見せ、様々な職業に就いていることもあり、何歳になっても母親から「あなたは将来、何になるんだろうね」と聞かれることでワクワクする気持ちになることから、会場の参加者にも「あなたは将来、何になりますか？」との言葉を贈り、会場は大いに盛り上がりました。

パネルディスカッション1

奥田氏による講演の後、モデレーターである大沢真知子氏（日本女子大学人間社会学部教授、現代女性キ

Report

内閣府は、平成28年11月にシンポジウム「アジア・太平洋　海を越えて活躍する先輩女性たちの魅力　～起業家と企業人の世界から～」を開催しました。ここではその概要をご紹介します。

パネルディスカッション1

ャリア研究所 所長）の下、パネルディスカッション1『女性の多様な働き方について』が行われました。

パネリストは、基調講演者でもある奥田浩美氏、白木夏子氏（株式会社HASUNA代表）、濵田真里氏（株式会社ネオキャリア海外事業部　編集ディレクター、ABROADERS編集長、なでしこVoice代表）、文美月氏（リトルムーンインターナショナル株式会社　創業者、取締役副社長）、ウィラヌッ・カモンルンワラクン氏（INFINITUS SERVICES CO., LTD.、CEO）の5名です。

このセッションでは、参加者から事前に寄せられた質問も踏まえ、各パネリストの起業のきっかけや、多文化の中で働くことの魅力等について意見が交わされました。

奥田氏からは、起業家に向いているのは、方向を指し示し、人の利点をきちんと見ることのできる人だとの指摘が、白木氏からは、起業は究極的な自由であり不安定である一方、自己実現の可能性や自分の人生・生活をコントロールしやすいこともあり、刺激的な日々を楽しめる人におすすめしたいとの意見も出されました。また、濵田氏からは、外国人から日本人の長時間労働について指摘を受けて人生が有限であると気付き、両親と過ごす時間を大事にしたいと考えているとの意見や、文氏からは、自分で自分を雇うと決めた瞬間から自分で決めた人生であり、本当に好きなことだったから苦にならなかったが、子育ては本当に時間がなく、取捨選択をしながら自分らしい人生を生きているとのコメントがあり、カモンルンワラクン氏からは、多文化を知ることで自分の視野が広がることや、タイではメイドが一般的で家事をアウトソーシングできるので、人の力を借りつつ、家族や親との時間や自分の時間を大事にすることができているとの経験が紹介されました。

（左から）文氏、カモンルンワラクン氏

（左から）白木氏、濵田氏

大沢氏

パネルディスカッション2

続いて、パネルディスカッション2『女性・起業の実態・課題について』が行われ、モデレーターである矢島洋子氏（三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社 女性活躍推進・ダイバーシティマネジメント戦略室長）から本事業の調査・研究の中間報告が行われた後、久保田学氏（一般社団法人留学生支援ネットワーク事務局長）から、留学生の日本における起業・企業への就職について、鈴木有理佳氏（アジア経済研究所地域研究センター動向分析研究グループ長代理）から、フィリピンにおける女性活躍の現状について、それぞれの専門分野に基づいたコメントがありました。

（左から）久保田氏、鈴木氏

シンポジウム「アジア・太平洋 海を越えて活躍する先輩女性たちの魅力 ～起業家と企業人の世界から～」開催

グループディスカッション

その後、登壇者、架け橋女性、一般の参加者を交え、12テーブルに分かれて、グループディスカッションを行い、非常に闊達な議論や知見・経験の共有が行われました。

具体的には、「成功or失敗」ではなく、「成功or学び」と考えるのが良いといったアドバイスや、仕事においてもプライベートにおいても、働き方や家族の在り方について「こうあるべき」という型に囚われない柔軟な発想が重要との意見や、仕事で得たものを子育てに活かし、子育てで得たものを仕事に活かす「ワーク・ライフ・シナジー」といった考え方・経験が共有されるなどしました。

グループディスカッションの様子

参加者からの反響

会場で行われたアンケートでは、「起業・結婚・出産のタイミングで悩んでいたので参考になった」「自分の夢や目標に向かって背中を押してくれた」などの感想が寄せられました。

特に、グループディスカッションへの反響が大きく（大変参考になった80％、参考になった20％、参考にならなかった0％）、架け橋女性たちと直接話し、経験・知見の共有や、質疑応答が行えたことに、多くの参加者から得るところが多かったとの意見が寄せられました。

本シンポジウムを含む事業の結果については、平成28年度内に報告書を取りまとめ、内閣府HP等で公表予定です。

シンポジウム出席の架け橋女性及び登壇者

女性の経済的エンパワメント・各国の取組⑨　バリアを破る教育・研修

立命館大学法学部 教授　大西 祥世

東京大学は2017年度から、地方出身の女子学生100人に、一定の条件はありますが1か月3万円の家賃補助を行うと発表しました。最近、女子高校生が選ぶ進学先は地元志向が強くなっています。そこで同大学は、2016年度から開始した推薦入試の受験枠を、共学校からは男女1人ずつ・最大2人までとするなど、さまざまな地域からの女性の入学者を増やして、異なる背景をもった多様な学生が切磋琢磨して学び合える環境を実現しようと意欲的に取り組んでいます。家賃補助はそうした施策の一環です。

女性の活躍促進を重視した教育や研修は、大学だけではなく、企業活動の活性化をもたらします。今日ではとくにICTや理工系分野（STEM）の女性への積極的な教育機会の提供がビジネスチャンスを大きく広げるために不可欠とされています。

イギリスにある世界最大の携帯電話事業会社は、エジプトでの取組の経験から、2020年までに世界中で720万人の非識字の女性を対象に、スマートフォンなどを用いた教育を行えば、女性の識字率は1.2％上昇し、アプリなどの技術を習得した女性の雇用が増えて、結果として3億4千万ドルの収益をもたらすと試算しました[1]。事業規模も利益額も壮大です。

アメリカのある食品メーカーは、原料調達先のインドの最貧州で現地のNGOと連携して、水害が発生しやすい地域での小規模農家の女性への教育・研修を行っています[2]。5年間で、初等教育を受ける機会も農業の生産技術を習得する機会も十分になかった女性1万5千人を対象に、単なる生産指導を超えて、気候変動の影響を学び水害発生の要因を理解した上で適切に対処する能力を身につける教育の後に農業技術研修を行いました。加えて、収入を管理し、貯蓄を増やすための経営研修も実施しました。

その結果、農業の生産性が上がり、それまで主に男性が担っていた生産から販売までの経営管理に女性も関与するようになりました。女性たちはさらにスキルアップして同社のバリューチェーンの担い手に力強く成長し、彼女たちを補佐する男性も現れました。日本の「農業の6次産業化」の取組と似ています。

ただ、教育や研修によって女性の潜在力に自らも周りも気づいて、経済的なエンパワメントを実現するにはさらに工夫が必要です。学生のレポートや社員の企画立案を評価する実験では、作成者を隠した匿名の場合は同等の評価を得たのに、そこに仮の名前を付けてみると、男性名では高く評価され、女性名では低くなる傾向があります。学問やビジネスは男性が担いリードするものだという思い込みが結果に影響しています。このような無意識のバイアスは怖いもので、それを自覚して改善しようとする研修プログラム[3]が多くの企業で活用されています。

女性の学生や社員に特化した教育や研修は、男性への逆差別だとする意見はなお根強くありますが、それはちがいます。伸びしろの大きな女性に重点を置くことで、これまで見えなかったバリア（障壁）を打ち破り、男女ともに多様な能力を存分に発揮できる社会にする取組と理解できます。学校や企業による人的投資です。女性が活躍すると男性の機会を奪うのではなく、男性社員の一層の活躍促進につながるビジネス・モデルの開発が急がれます。

1 Vodafone, Connected Women, 2014.
2 Kellogg Company, 2015 Year-End Sustainability Milestones, 2015.
3 たとえば、https://businessiats.diverseo.com/en/12

おおにし・さちよ／立命館大学法学部教授。博士（法学）。専門：憲法、ジェンダーと法・政策、議会法。国連「女性のエンパワメント原則」リーダーシップグループメンバーとして活動。主著：『女性と憲法の構造』（信山社、2006年）、「国連・企業・政府の協働による国際人権保障」国際人権27号（2016年）、「『政治的，経済的又は社会的関係において，差別されない』の保障」立命館法学355号（2015年）等。

Onishi Sachiyo

TOPICS Part 1

世界経済フォーラムが「ジェンダー・ギャップ指数2016」を公表

内閣府男女共同参画局総務課

世界経済フォーラム（World Economic Forum）が平成28年10月、「The Global Gender Gap Report 2016」において、各国における男女格差を測るジェンダー・ギャップ指数（Gender Gap Index：GGI）を発表しました。本指数は、経済、教育、政治、保健の4つの分野のデータから作成され、0が完全不平等、1が完全平等を意味しています。2016年の日本の順位は、144か国中111位（2015年は145か国中101位）でした。世界経済フォーラムによれば、勤労所得の推計方法が変更されたとのことであり(注)、これが順位の変動要因の一つと考えられます。

このほか、各国における男女格差を測る主な国際的指数としては、国連開発計画（UNDP）のジェンダー不平等指数（Gender Inequality Index：GII）があります。GIIは、保健分野、エンパワーメント、労働市場の3つの側面から構成されており、男女の不平等による人間開発の可能性の損失を示しています。0から1までの値を取りますが、1に近いほど不平等の度合いがより高いことを示します。平成27年12月に「Human Development Report 2015（人間開発報告書2015）」で公表された2014年の日本の値は0.133で155か国中26位であり、妊産婦死亡率などの指標が評価された結果と考えられます。

ジェンダー・ギャップ指数（2016）
主な国の順位

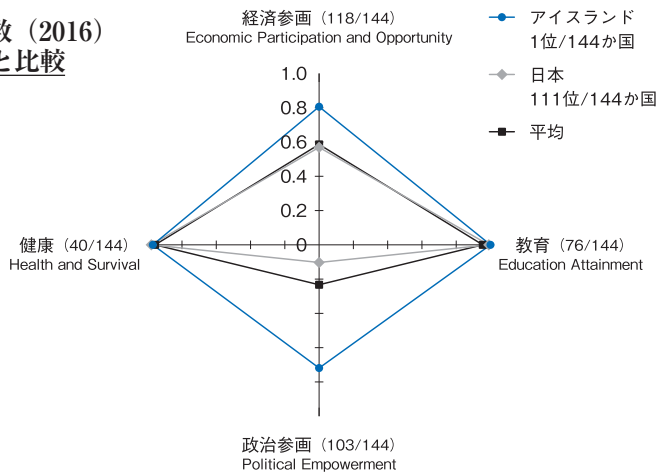
順位	国名	値
1	アイスランド	0.874
2	フィンランド	0.845
3	ノルウェー	0.842
4	スウェーデン	0.815
5	ルワンダ	0.800
6	アイルランド	0.797
7	フィリピン	0.786
8	スロベニア	0.786
9	ニュージーランド	0.781
10	ニカラグア	0.780
13	ドイツ	0.766
17	フランス	0.755
20	英国	0.752
35	カナダ	0.731
45	アメリカ	0.722
50	イタリア	0.719
75	ロシア	0.691
99	中国	0.676
111	**日本**	**0.660**
116	韓国	0.649

(注) 勤労所得の男女格差の推計を行うにあたり、前回までは男女それぞれの推定勤労所得の上限値が定められてきましたが（一定値以上の所得は幸福度に影響を与えないとの前提。具体的には40,000米ドル（購買力平価ベース））、今回の推計においては上限が引き上げられており、そのために概ね先進国では影響を受けることとなりました。

日本の推定勤労所得の男女比の変化

	昨年	今年
①男性（USD, PPP）	40,000	48,796
②女性（USD, PPP）	24,389	25,091
③男女比（=②/①）	0.61	0.514

ジェンダー・ギャップ指数（2016）
各分野の日本の順位と比較



※GGI及びGIIに関してより詳しく知りたい方は、下記のサイトをご参照ください。

GGI
（Global Gender Gap Report 2016）
https://www.weforum.org/reports/the-global-gender-gap-report-2016

GII
（Human Development Report 2015）
http://hdr.undp.org/en/data

地域における女性の活躍推進⑩

女性の力で地域の課題を解決する

内閣府男女共同参画局総務課

「CARAT滋賀・女性・元気プロジェクト」ロゴマーク

女性のキャリアアップセミナー（滋賀県）

イクボスセミナー（滋賀県）

今回は、平成26年度補正「地域女性活躍推進交付金」から2事業を紹介します。

○CARAT（カラット）滋賀・女性・元気プロジェクト（滋賀県）

滋賀県では、女性の活躍推進を図るため、女性の継続就労、キャリアアップ支援、男性の意識改革・働き方の見直しを進める取組を集中的に実施するとともに、農業・農村において能力を発揮する女性の支援に重点的に取り組みました。

女性のターニングポイント応援事業では、継続就労を希望する女性のため、結婚や育休後のキャリアイメージを描くセミナーを開催しました。

男性や上司・管理職の理解促進に向けては、「イクメン養成講座」や「イクボス養成講座」、男性の家庭参画、仕事と生活の両立の加速化を図るための検討会などを開催するとともに、県内のイクメンやイクボスの事例を情報誌に掲載・発信することで、それぞれの立場で女性活躍推進に取り組む意義について、広く理解を深めることができました。

企業に向けては、女性の活躍促進を経営戦略として理解する経営者向けセミナーや女性のキャリアアップセミナーを開催しました。また、農業・農村において女性の感性等を活かしたアグリビジネスにチャレンジする女性を創出するための連続講座を開催し、女性の意欲向上を図りました。

このように、関係機関や企業等と連携した、女性の活躍推進のための多岐にわたる取組の実施により、県全体で女性活躍を推進する輪が広がりました。

HP「かがわ女性の輝き応援団」

香川県女性の活躍応援キャラクター「池　輝香（いけ　てるか）」

女性が輝くネットワーク構築セミナー（香川県）

○うどん県。女性が輝く香川県づくり事業（香川県）

香川県では、「女性が輝く香川県」の実現をめざして、①「組織」、②「地域」、③「特定テーマ」の三つの観点から、地域の多様な主体と連携した、女性の活躍推進のための情報発信事業やネットワーク構築事業等に取り組みました。

平成27年7月に開設したホームページ「かがわ女性の輝き応援団」では、働く女性のためのセミナーや県内で活躍する女性等によるリレーインタビューなどを掲載し、女性が活躍するために必要な情報が一元的に得られる環境づくりを推進しました。

「組織」の観点からは、企業間のネットワークを構築するセミナーを実施するとともに、優良企業の表彰等を行いました。「地域」の観点からは、県内5地域で各地域の実情に応じた女性の活躍推進のための講演会等を開催しました。さらに「特定テーマ」の観点からは、NPOや企業等と協働して、キャリアと家庭の両立や女性の活躍による地方活性化について考えるセミナー等を開催しました。

各事業の実施にあたっては、市町や関係団体と連携し、その情報をホームページで一元的に発信することで、県全体で女性の活躍推進に向けての意識啓発や気運の醸成を図ることができました。

○交付金事業による取組の詳細はHPをご覧下さい。

http://www.gender.go.jp/policy/chihou_renkei/kofukin/h26/jisshi_h26.html

TOPICS Part 2

平成28年度『家族の日フォーラム』開催報告

内閣府子ども・子育て本部

内閣府・三重県主催「家族の日フォーラム」

内閣府では、11月の第3日曜日を「家族の日」、その前後各1週間を「家族の週間」と定め、子育てを支える家族や地域の大切さ等についての理解促進を図っています。本年度は11月20日三重県立みえこどもの城において、家族の日フォーラムを開催しました。

オープニング～表彰式

開会にあたり松阪市立殿町中学校吹奏楽部によるオープニングステージが行われました。

初めに、主催者挨拶として、加藤勝信内閣府特命担当大臣から「このフォーラムが、家族、地域のつながりや子育ての大切さを改めて確認するきっかけとなり、温かな社会が広がっていくことを願っております。」とビデオメッセージによる挨拶があり、続いて、渡邉信一郎三重県副知事が挨拶しました。

その後、「家族や地域の大切さに関する作品コンクール」表彰式が行われ、最優秀賞受賞者に表彰状が手渡されました。

トークセッション

続いて、FM三重の西本亜裕子氏を聞き手とし、放送作家の鈴木おさむ氏による「ママと子供に自分ができること」と題したトークセッションが行われました。

鈴木氏の妻は、森三中の大島美幸さん。交際0日で始まった結婚生活から、大島さんが「妊活休業宣言」をするまでの葛藤。妊活を経て、妊娠がわかった時の喜びと不安などについて率直に話されました。中でも、出産後に育児と向き合うために放送作家業を休んだ1年間に感じた大事なこととして以下の3点を挙げました。

①子供より妻のアシストにまわる

生まれたての時は、父親にできることは少ないけれど、何ができるかという目で生活を見て、子供の事より妻のアシストにまわることだという考えにいたった。その間、日々成長する子供に向き合うこともできたのは、大きな喜びだった。

②母親は、父親に任せる勇気を持つこと

母親が父親の家事や育児は不安だからと自分でやってしまうことが、父親の折角のやる気を削いでしまう。女性側も男性に任せる、チャレンジさせてあげることが大事。

③夫婦で都度話し合うこと

夫婦どちらにとっても初めての子育て。家事・育児の具体的な分担や時間割、仕事との両立、あるいは不満・不安など、都度夫婦で話し合うことが大切。

パネルディスカッション

続いて、「家族で、地域で　みんなで子育て」と題して、コーディネーターに、高田短期大学キャリア育成学科教授の杉浦礼子氏、パネラーには、核家族で夫の仕事が忙しい中、長男を出産し、孤独な子育てをした自身の経験をもとに自分が欲しい支援サービスを立ち上げたNPO法人マザーズライフサポーター代表の伊藤理恵氏、現在1児の父で、地元の魚を使った離乳食の販売事業等を行う一方、昨年企業・団体など地域が一体となって子育て家庭を応援するイベント「子育て応援！わくわくフェスタ」の実行委員長を務めた株式会社ディーグリーン代表の東城氏、そして鈴木おさむ氏も加わりパネルディスカッションが行われました。

加藤勝信内閣府特命担当大臣のビデオメッセージ

渡邉信一郎三重県副知事の主催者挨拶

鈴木おさむ氏のトークセッションの様子

やっぱり、家族っていいね。

家族の日
家族の週間

パネルディスカッションの様子

高田短期大学キャリア育成学科教授
杉浦礼子氏

NPO法人マザーズライフサポーター
代表　伊藤理恵氏

放送作家　鈴木おさむ氏

株式会社ディーグリーン代表　東城氏

テーマ1　家族で支える子育て

「家族で支える子育て」というテーマに対して伊藤氏は、「周囲で短時間の勤務をする女性は、パパに内緒で働く人も。家庭、育児のことを100％できて初めて外に行ってよいという風潮はまだある。一方、家事や育児に参画したいと思うパパもいると思う」と発言し、それに対して鈴木氏は、「女性側もパパの家事・育児を許す心が必要。チャレンジする機会をもらえないと、どんどん遠巻きになっていく。男性側も奥さんが多少嫌がっても参画し、夫婦で話し合いながら正解を出していけるとよい」と意見を述べました。また、「私が一番良かったのは抱っこ教室に一緒に行ったこと。正しいと思った『妻のやり方』が先生にダメ出しされ、いったんフラットになり、二人同じ目線で学ぶことができた」と体験を語りました。

「男性目線から、パパのやる気が出る褒め言葉は？」という問いかけに対し、東氏は「自分が褒められるより、『子供が喜んでいたよ』と言われる方が嬉しい」、鈴木氏は、「子供がなついたり、自分の寝かしつけでも早く寝るようになったりという変化が嬉しい」と、子供の反応や成長がモチベーションになると語りました。

テーマ2　地域で支える子育て

続いて、「地域で支える子育て」というテーマの際に、東氏は、自社で女性スタッフが多く、産休取得者もいるが、小さな町なので新しい人を探すのも大変であり、「産後は復帰してもらいたいが、どうすればよいのか手探り状態」と悩みを挙げ、鈴木氏は、「本人がどのタイミングでどのくらい働きたいのか、また会社としてはどうしてほしいかを、従業員も雇用主も遠慮せず本音で話し合えると良いと思う」と発言しました。

杉浦氏からは、女性が子育てをしながら働く上で大切なのは「職場の理解」や「配偶者の理解」、「短い時間での勤務スタイル」との回答が多いというデータが紹介され、「働きやすさを改善すると、パパやママだけじゃなくてみんなにとっても働きやすい職場になる」と述べました。東氏は、「三重県には子育てを応援する企業・団体で組織された『みえ次世代育成応援ネットワーク』があり、地域の子育てを支えている」と紹介があり、それに対して杉浦氏が「家族の枠を超えて、企業・団体、社会全体で、広く子育てを支援していける社会になるとよい」と応えました。また、「近所の大人から褒められたことがある子供ほど、自分のことが好き」というデータの紹介があり、子供の育ちにとっての地域社会の重要性を述べました。

まとめ

最後のまとめとして東氏は、「地方で子供が少なくなると、子供に対するサービスや情報が減ってしまうのが心配。子育て中の方が『住みたい』と思える街にしていきたい」と述べ、伊藤氏は「パパやママが『ごめんなさい』ではなく、『ありがとう』とたくさん言える社会にしていきたい」と話しました。鈴木氏は、「子育てをどれだけ夫婦で協力できたか、どうやって子供を大人にしていけたのか、二人で頑張った夫婦が、いい老後を過ごしているように思う。」と述べました。杉浦氏が、「子育ての幸せを、社会にもおすそ分けしていただけている。子育てに関わった皆さんが幸せを実感できる社会にしていけるとよい」と締めくくりました。

「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」行動宣言賛同者の取組

一昨年「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」行動宣言が公表され、現在130名を超える男性リーダーが本宣言に賛同しています。今月は4名の賛同者の取組を紹介します。

多様性が新しい価値創造に繋がる会社を目指します！

私たちキリングループは、真摯なモノづくりと心を動かすようなコトづくりを通じて、お客様の笑顔や社会の発展に貢献することを目指しています。そのためには、多様な従業員が様々な意見を出し合い、新しい発想でこれまでにない価値創造にチャレンジすることが重要です。

女性の活躍が会社を変える。2007年よりKWN（キリン・ウィメンズ・ネットワーク）を立ち上げ、女性活躍を推進しています。2021年には女性リーダーを12%にする目標を掲げ、女性リーダーの育成に取り組んでおります。消費者の半分が女性である市場の期待に応えていくためにも、女性ならではの視点を活かすことは、企業にとって極めて重要であると考えています。

その育成方針になっているものが「前倒しのキャリア」です。今後、育成すべき若手女性メンバーにとって、仕事の修羅場経験やキャリアチェンジと、出産育児等のライフイベントが重ならないよう、早い段階で、仕事で「一皮向ける体験」を積ませ、「得意領域」を持てるよう育成していきます。

具体的には、入社3年目の女性メンバーとそのリーダーへの考え方の浸透、自らキャリアについて考える「キャリアワークショップ」、女性メンバーとのキャリア面談に関するリーダー向け手引書の整備、女性リーダー育成プログラムの「キリン・ウィメンズ・カレッジ」等を実施しています。

今後とも、多様な社員が活き活きと活躍できるよう、リーダー層のマネジメント力の向上、働き方改革、風土作り等に取り組んでいきます。

磯崎 功典
キリンホールディングス株式会社
代表取締役社長

キャリアワークショップの様子

女性リーダー育成プログラムの「キリン・ウィメンズ・カレッジ」の様子

次世代女性リーダー育成と働き方改革を両輪で推進

三井住友銀行では、ダイバーシティ推進を成長戦略と位置付けて取り組んでおり、特に「女性の活躍」は最優先課題の1つとして注力しています。2014年、私が委員長となり、各部門トップと外部有識者とで構成される「ダイバーシティ推進委員会」を設置し、部門毎にそれぞれの課題に応じたフィット感のある施策を展開しています。

また、女性リーダーの育成にも力を入れており、現在3名の女性執行役員が活躍していますが、続く次世代を育成するため、中堅女性を対象としたリーダーシップ研修やメンター制度などのキャリア支援を実施しています。研修には私も毎回参加し、ディスカッションを行っていますが、将来を託せる次世代女性リーダーが着々と育っている手応えを感じます。

長時間労働の是正を含む「働き方改革」にも、女性活躍推進の“本丸”と位置付けて取組を強化しています。2015年度より、残業時間の削減目標と業務効率化のための策を定め、外部有識者の評価も踏まえた「働き方改革アワード」を開催しており、定例会議の全廃・資料の過剰品質の排除等、本質を突いた取組を行った部署を、私が表彰しています。また、2016年7月には、要望の多かった「在宅勤務制度」も導入しました。

女性の活躍を不可逆のものとするためには、「トップがコミットし続けること」が不可欠です。今後も、「輝く女性が活躍する社会」の実現に向け、私自身が先頭に立って取り組んでいきます。

國部 毅
株式会社三井住友銀行
頭取兼最高執行役員

中堅女性向けリーダーシップ研修最終日の様子

「働き方改革アワード」金賞表彰

鈴木 純
帝人株式会社
代表取締役CEO

「イクボスセミナー」での「イクボス宣言」（松山事業所管理職）

「女性リーダーシップ研修」に上司も同席

女性活躍推進のその先へ

テイジンは、グローバルな成長において「女性活躍推進が経営上の競争優位に結びつく」と考え、2000年に、専任組織を設置し、推進活動に着手しました。

意思決定層に女性を増やすことを目的に、新卒採用の女性比率、女性管理職比率に数値目標を設け、女性の意識向上・育成のためのプログラムを実施し、同時に人事制度、ワークライフバランス関連制度の改善・整備に取り組んできました。取組を始めてから、女性管理職数が10倍となり、その半数がワーキングマザーとして活躍しています。

多様な組織をマネージメントするには、互いの違いを認め合い、個々の力が発揮できる環境を整えることが重要です。その鍵は、「管理職」にあると考えています。昨年は、「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」行動宣言に賛同し、また「イクボス企業同盟」にも加盟しました。女性活躍推進のための管理職向けセミナーや、女性のリーダーシップ研修に管理職を同席させること等によって、「管理職の意識改革」にも取り組んでいます。

テイジンは企業理念に「Quality of Life」を掲げています。一人ひとりが、生活の豊かさを創造するために、働き方の選択肢を広げていくこと、すなわち、「多様な働き方を実現すること」が重要だと考えています。女性にかかわらず社員が意欲・能力を最大限に発揮できるよう、今までの枠にとらわれない「ワークスタイルの変革」を通して、社員一人ひとりの活躍を支援していきます。

津賀 一宏
パナソニック株式会社
代表取締役社長

社長と現地幹部との懇談会（インド）

「ダイバーシティマネジメントフォーラム」の様子

さらなる「お役立ち」の創出に向けて～「衆知」を集めグローバルに発展

パナソニックは、松下幸之助による1918年の創業以来、事業を通じて世界中の皆様の「くらし」の向上と社会の発展に貢献することを基本理念とし、企業活動を行ってまいりました。現在も「お客様への『お役立ち』を創出し続ける会社」に向け、グループ一丸となり成長戦略を推進しております。

我々を取り巻く環境は大きく変化しています。2018年に創業100周年を迎える当社が、今後も更なる発展を遂げるためには、お客様やグローバルに広がる市場にしっかりと向き合い、常に事業を進化させていかなければなりません。その際には、従来以上に多様なものの見方、考え方が必要となります。

こうした観点から、当社は、国籍や性別等に関係なく、お客様・社会に対してお役立ちを創出できる人材が集い、絶えず挑戦していける会社を目指し、様々な施策を進めております。女性や外国人の活躍の場の拡大はもちろん、例えばM&Aでグループに加わった会社や、外部のパートナーも含めて、互いに長所を吸収するといったことも積極的に行っております。こうした取組の結果こそが、当社にとっての「人材の多様性」であり、「共同参画」の姿です。

当社には、創業者の残した「衆知を集める」という言葉があります。グローバル26万人の社員一人ひとりが、強みを活かし、知恵を寄せ合って挑戦を重ねていく。そして新たなお役立ちの創出、さらには「未知なる未来」の創造に向けて活躍できる姿を目指し、今後も取組を一層進化させてまいります。

[News & Information]

1 News　国立女性教育会館（NWEC）

アセアン諸国における人身取引対策協力促進

10月24日（月）～11月4日（金）に、フィリピン、カンボジア、タイ、ベトナム、マレーシア、ミャンマーから来日した人身取引対策に携わる行政関係者13名を対象に、国際協力機構（JICA）からの委託事業として標記研修を実施しました。本研修は、知識共創プログラムに位置づけられており、日本と参加国とがお互いの国の取組について理解を深めていく相互の学びを大切にしています。

研修生は、日本政府の人身取引対策の取組について学ぶとともに、東京入国管理局や東京都女性相談所等の見学、女性に対する暴力や児童の支援に携わる民間団体のスタディーツアー、よりそいホットラインの見学等に参加し、ワークショップを通じて参加国相互の実態や課題について理解を深めました。NWECでは、男女共同参画の取組として、経済的エンパワーメントの重要性や男性リーダーの参画の重要性などについて活発な意見交換が行われ、他に茶室での日本文化体験を楽しみました。11月2日（水）には成果発表と意見交換会を開催し、関係諸機関や民間団体、国際機関の参加も得て、ネットワークを深めました。

※詳細はホームページをご覧ください。
https://www.nwec.jp/global/cooperation/2016page50.html

2 Info　国立女性教育会館（NWEC）

「女子大学生キャリア形成セミナー」の開催

NWECでは、「キャリアを考えることは、人生を考えること」をテーマに、女性に特有のライフプランニングを踏まえたキャリア構築について学び、将来、社会や組織を支える女性リーダーの育成を目的としたセミナーを開催します。

対談やパネルディスカッションのプログラムでは、先輩女性からさまざまなキャリア体験談を聞き、グループワークでは、カフェにいるような雰囲気の中、同じ悩みや思いを持つ参加者同士が学年を越えて語り合います。人生の先輩や仲間との語らいやグループワークを通じて、自分を見つめ直しながらキャリアについて考えてみませんか。

期　日：平成29年2月18日（土）～19日（日）［1泊2日］
参加費：無料（宿泊費、懇親会費、食事代別途）
会　場：18日（土）霞が関ナレッジスクエア（東京都）
　　19日（日）NWEC（埼玉県比企郡嵐山町菅谷728）
※18日のプログラム終了後、無料バスでNWECまで移動
締　切：平成29年2月10日（金）
※詳細はホームページをご覧ください。
http://www.nwec.jp/jp/program/invite/2016/page9i.html
問合せ　国立女性教育会館　事業課
TEL：0493-62-6724/6725　　Email：progdiv@nwec.jp

3 Info　内閣府

平成28年度　自治体・企業・NPOによる「子育て支援連携事業」全国会議

少子化が進行する中、社会全体で子育て家庭を応援し、子供を生み育てやすい環境づくりを地域が一体となって進めていく必要があります。

内閣府では、企業やNPO等が参加した子育て支援の取組を一層推進し、社会全体で子育て家庭を支援する機運の醸成を図るため、自治体・企業・NPO等が連携して子育て支援に取り組む事例の紹介や、それぞれが抱える課題解決へのヒントとなるワークショップ等を行う全国会議を開催いたします。ぜひ、ご参加ください。

【日　時】平成29年2月7日（火）　13：15～16：30
【場　所】イイノカンファレンスセンター（東京都千代田区内幸町2-1-1　イイノビル4階）
【対　象】妊娠・出産、子育て支援ご担当の地方自治体、企業、NPO等の方、及び関心のある方
　　※参加費無料、事前申込制（先着150名）
【内　容】東京学芸大学教授／松田恵示氏による基調講演、自治体・企業・NPOによる連携事業の事例報告、ワークショップ、交流会（閉会後）等
※詳細や申込方法は内閣府HPをご覧ください。
http://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/relation/h28/index.html

4 Info　厚生労働省

平成28年度パートタイム労働者活躍推進企業表彰式典シンポジウム及びパートタイム労働者雇用管理改善セミナー（活用編）を開催します！

厚生労働省では、パートタイム労働者の活躍推進への取組を積極的に進める企業を表彰する「パートタイム労働者活躍推進企業表彰」を平成27年度より実施しております。このたび、平成28年度の受賞企業として、厚生労働大臣賞である最優良賞に、株式会社オリエンタルランド、株式会社ケア２１の2社を、その他優良賞4社、奨励賞6社の計12社を決定しました。これを受けて、表彰式や受賞企業を交えたパネルディスカッションを内容とした表彰式典「パートタイム労働者が活躍できる職場づくりシンポジウム」を平成29年1月25日（水）14時より新宿明治安田生命ホールで開催します。

また、表彰審査委員の講演と受賞企業の事例発表等を内容とした、「パートタイム労働者雇用管理改善セミナー（活用編）」を1月から2月にかけて全国7カ所で開催いたします。パートタイム労働者の雇用管理や活躍推進に関心のある多くの皆様のご参加をお待ちしております。

シンポジウム、セミナーなどの詳しいご案内は「パート労働ポータルサイト」（https://part-tanjikan.mhlw.go.jp/）をご覧下さい。

男女共同参画センターだより

News From Center

札幌市男女共同参画センター

指定管理者　公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会

札幌市男女共同参画センターは平成15年9月に開設された札幌市の男女共同参画社会実現のための拠点施設で、市民活動サポートセンター、環境プラザ、消費者センターと共に札幌エルプラザ公共施設の中に設置されています。指定管理者として、(公財)さっぽろ青少年女性活動協会が管理運営をしています。

札幌駅から5分という好アクセスもあり、多くの市民の皆さまにご利用いただいています。

事業においては、「子ども・若者のための男女共同参画啓発事業」「男性のエンパワメント事業」「働く女性のためのキャリア支援事業」「誰もが子育てしやすい環境づくり事業」を重点事業として、それぞれ学習機会の提供や、同じ課題を持った方々によるコミュニティ形成、また個別支援等を行っています。

「働く女性のためのキャリア支援事業」では起業支援として「女性のためのコワーキングスペース」をセンター内に設置しています。さまざまな起業ステージにある女性が利用されており、場所の提供だけではなく、交流や成長の場となっています。市内・道内の創業支援機関、金融機関とのネットワークを構築することよって効果的な創業支援が実現しています。

今年度は、若年層女性の相談窓口として「ガールズ相談」を実施しました。夏休み明けの2週間、電話、面談のほか、LINEでの相談に対応したところ850件弱の相談が寄せられ、その内、LINEでの相談が800件以上でした。若年層女性の抱える課題や生活行動など、ガールズ相談から得られた気づきを、今後の事業に活かして、対象者に寄り添う支援を継続していきます。

女性のためのコワーキングスペース

他にも、企業での働き方を考える「働き方改革さっぽろ会議」や、男性を対象にした「メンズカフェ」など、時勢に合ったテーマを札幌にフィットした形で展開できるよう、企画しています。

今後も、市民、企業、行政など多様な男女共同参画の担い手と連携をしながら、地域のジェンダー課題解決の拠点として事業を実施して参ります。

Editor's Note

編集後記

年が明けて、今年も男女共同参画週間キャッチフレーズ募集の時期になりました。男女局ホームページの専用投稿フォームから応募できます。皆様の応募をお待ちしております。

先日、よそ見をしながら歩いていましたら、歩道の縁石に革靴の鏡面をこすってしまいました。自分で靴クリームを塗りこみながら補修を試みてみましたが、傷が大きいので、どうしても目立ってしまいます。普段の靴磨きは家事のひとつとして自分でやっていますが、こういう場合にはプロにお願いするのが良さそうです。

（編集デスク　U.M）

【1月号表紙】

互いに協力・助け合い、楽しんで家事ができる環境づくりを構築しましょう。

デザイン／鈴木明子

Kyodo-Sankaku

月刊総合情報誌
「共同参画」1月号

http://www.gender.go.jp

https://www.facebook.com/danjokyodosankaku/

第97号●2017年1月10日発行
編集・発行●内閣府
〒100-8914
東京都千代田区永田町1-6-1
内閣府男女共同参画局総務課
電話●03-5253-2111（代）
印刷●日昇印刷株式会社

平成29年度
「男女共同参画週間」キャッチフレーズ募集！

**あなたの作品が
プロデザイナーによる
ポスターになって
全国で活用されます!!**

募集テーマ：
女性も男性も、自らの意思により
個性と能力を発揮して活躍できる職場を
作るためのキャッチフレーズ

平成29年は、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」（女性活躍推進法）の完全施行から１年が経過します。この１年で、大企業や国・地方公共団体における事業主行動計画の策定率がほぼ100%になるなど、女性の活躍推進に向けた取組は大きく前進しました。

正規雇用、非正規雇用といった雇用形態、自営業等の就業形態にかかわらず、既に働いている方のみならず、これから働こうとしている女性も、そして男性も、自らの意思により、各々の夢と希望を実現するため、一層その個性と能力を十分に発揮して働ける職場を作るためのキャッチフレーズを募集します。

このキャッチフレーズは、平成29年度「男女共同参画週間」のポスターをはじめ、様々な場面で広報・啓発活動に使用します。たくさんの御応募、お待ちしています！

1　応募資格　どなたでも応募できます。ただし、応募作品は未発表の自作のものに限ります。
2　応募期間　平成２９年１月１２日(木)から同年２月２８日(火)まで
3　応募方法　男女共同参画局サイトのキャッチフレーズ募集ページから、応募フォームに必要事項を入力して御応募ください。
http://www.gender.go.jp/public/week/week.html
お一人何作品でも御応募可能です！
ただし、応募１回につき１作品とさせていただきます。

※個人情報の取扱い
応募フォーム等に記載された個人情報は、本公募に関連する用途に限って使用し、「行政機関の保有する個人情報の保護に関する法律」に基づき適正な管理を行います。

4　審査及び表彰　内閣府及び外部審査員(※)において審査を行い、入賞者には４月中に通知いたします。
※　勝間和代氏（経済評論家）　萩原なつ子氏（立教大学教授）　山本高史氏（関西大学教授）

↑平成28年度 最優秀作品

入賞作品（最優秀賞、優秀賞）の応募者には、後日、記念品を贈呈いたします。
また、最優秀賞作品は、６月の男女共同参画週間の期間中に男女共同参画担当大臣から表彰予定です。

5　その他　応募作品は返却いたしません。また、入賞作品の著作権は内閣府に帰属します。
6　問合せ先　内閣府男女共同参画局総務課「キャッチフレーズ募集係」03-5253-2111(代表)